

平成 25 年 7 月 1 日

脱出防止対策の徹底について

佐渡自然保護官事務所

佐渡トキ保護センター

トキの脱出を防止するため、下記のとおり脱出防止対策を定め、徹底して実行する。

1 脱出防止の基本的考え方

脱出防止は飼育における基本であり、職員は二重扉の意義を認識し、慣れからくる油断が生じないように十分注意して飼育管理に当たることとする。

2 日常の飼育管理における扉・戸の管理

ケージ及び給餌棟の扉・戸は、出入りのつど必ず 1 枚ずつ開け閉めを行う。

ア 指差し確認

扉を閉める際は、必ずドアノブのロックを確認し、指差し確認を行う。（ドアノブ部分を指で差し、「閉めよし」のかけ声を出す）指差し確認のやり忘れなどがあった場合、その場で職員が互いに声をかけるなどして、指差し確認の徹底を図る。

指差し確認の掲示物を作成、各扉に掲示する。

イ 扉の管理方法の改善

野生復帰ステーションの収容棟では、建物入口とケージ入口の扉の間にある中扉を常時開けていたが、設置されている扉は全て常時閉める。

ウ 扉の調整

ドアは開放した状態で止まらないように調整する。

3 捕獲作業等における注意点

ア 段ボール箱の固定

捕獲作業等を行う場合は、一時的に内側から施錠するなど、作業中に飼育棟への人の出入りがないようにするとともに、捕獲したトキを入れた段ボールの上部を固定するときは、トキが暴れて脱出しないよう、必ず十分な長さの 2 本のガムテープで固定する。

イ 位置確認の徹底

ケージへの出入りの際は、自らとケージ内のトキの位置関係を把握し、余裕をもって出入りし、扉の開け閉めによる衝突事故や脱走に十分気をつける。

ウ 捕獲網の備え付け

トキの脱出に備え、各ケージの入口などに下表のとおり捕獲網を常置する。

また、捕獲作業等で網を使用した場合は、使用後に網の破損などがないか、その都度点検を行う。

4 意識改革等

ア トキの飼育管理の過程で生じたトキの脱走・負傷等に関するヒヤリハット事例を確認した場合、速やかに文書を作成して回覧することにより全職員で情報共有するとともに、月1回の全体ミーティングで安全管理等について話し合い、安全管理意識を徹底する。

イ 一斉捕獲の際などに、必要に応じ指差し確認を実演し、全職員の周知、実行に努める。

ウ 全職員が佐渡トキ保護センターの安全管理指針及び本「脱出防止対策の徹底について」を所持し、熟読を徹底する。

捕獲網の常置場所

トキ保護センター	本数	柄長	野生復帰ステーション	本数	柄長
A ケージ	1	90 cm	順化ケージ	2	180 cm
B・C ケージ	1	90 cm	給餌棟 A	1	50 cm
D ケージ	1	90 cm	給餌棟 C	1	50 cm
E ケージ	2	50 cm,90 cm	収容ケージ	1	50 cm
育雛ケージ 2号棟	1	50 cm	管理棟 (1階駐車場)	2	50 cm,180 cm
			管理棟 (2階)	2	50 cm,180 cm